

1. 次の問いに答えよ。

- (1) 生活習慣病の一次予防はどれか。
1. 早期治療
 2. 検診の受診
 3. 適切な食生活
 4. 社会復帰を目指したリハビリテーション
- (2) 日本における令和5年(2023年)の5~9歳の子どもの死因で最も多いのはどれか。
1. 肺炎
 2. 心疾患
 3. 不慮の事故
 4. 悪性新生物〈腫瘍〉
- (3) 令和4年(2022年)の国民生活基礎調査で、男性の有訴者の症状が最も多いのはどれか。
1. 腰痛
 2. もの忘れ
 3. 体がだるい
 4. 目のかすみ
 5. 手足の関節が痛む
- (4) 健康日本21(第三次)における1日の塩分摂取量の目標値で正しいのはどれか。
1. 5.0g
 2. 7.0g
 3. 9.0g
 4. 11.0g
- (5) 令和5年(2023年)の国民健康・栄養調査において、男性で運動習慣のある割合が最も多いのはどれか。
1. 20~29歳
 2. 40~49歳
 3. 60~69歳
 4. 70歳以上
- (6) メタボリックシンドロームの診断基準において男性の腹囲〈ウエスト周囲径〉で正しいのはどれか。
1. 80cm以上
 2. 85cm以上
 3. 90cm以上
 4. 95cm以上

- (7) 学童の体格を評価するのに用いるのはどれか。
1. Kaup 〈カウプ〉 指数
 2. Rohrer 〈ローレル〉 指数
 3. Tanner 〈タナー〉 の分類
 4. Scammon 〈スキャモン〉 の発育曲線
- (8) 労働安全衛生法に規定されているのはどれか。
1. 失業手当の給付
 2. 労働者に対する健康診断の実施
 3. 労働者に対する労働条件の明示
 4. 雇用の分野における男女の均等な機会と待遇の確保
- (9) 胎児循環で酸素を最も多く含む血液が流れているのはどれか。
1. 肺動脈
 2. 肺静脈
 3. 臍動脈
 4. 臍静脈
- (10) 出生時からみられ、生後4か月ころに消失する反射はどれか。
1. 手掌把握反射
 2. 足底把握反射
 3. パラシュート反射
 4. Babinski 〈バビンスキー〉 反射
- (11) 運動機能の発達で3歳以降に獲得するのはどれか。
1. 階段を昇る。
 2. ひとりで立つ。
 3. ボールを蹴る。
 4. けんけん 〈片足跳び〉 をする。
- (12) 老年期にみられる身体的な変化はどれか。
1. 血管抵抗の増大
 2. 消化管の運動の亢進
 3. 水晶体の弾性の増大
 4. メラトニン分泌量の増加
- (13) 小脳失調でみられるのはどれか。
1. 下肢の麻痺が認められる。
 2. 姿勢保持が困難になる。
 3. 血圧が不安定になる。
 4. 体がこわばる。

- (14) 肘関節を伸展させる筋肉はどれか。
1. 三角筋
 2. 大胸筋
 3. 上腕三頭筋
 4. 上腕二頭筋
- (15) 経膣分娩の正常な経過で最初に起こるのはどれか。
1. 発露
 2. 排臨
 3. 胎盤の娩出
 4. 児頭の娩出
 5. 子宮口の全開大
- (16) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律〈感染症法〉において、結核が分類されるのはどれか。
1. 一類
 2. 二類
 3. 三類
 4. 四類
 5. 五類
- (17) 上腕動脈で行う聴診法による血圧測定で適切なのはどれか。
1. 成人では9～10cm幅のマンシエットを用いる。
 2. マンシエットの下端と肘窩が重なるように巻く。
 3. マンシエットの装着部位と心臓が同じ高さになるようにする。
 4. マンシエットと腕の間に指が3、4本入る程度の強さで巻く。
- (18) 自力での摂取が困難な成人患者の食事介助で適切なのはどれか。
1. 水分の少ない食べ物を準備する。
 2. 時間をかけずに次々と食物を口に入れる。
 3. 患者に食事内容が見える位置に食器を配置する。
 4. 患者の下顎が上がるよう高い位置からスプーンを操作する。
- (19) 左片麻痺患者の上衣の交換で適切なのはどれか。
1. 左腕から脱がせ、左腕から着せる。
 2. 左腕から脱がせ、右腕から着せる。
 3. 右腕から脱がせ、左腕から着せる。
 4. 右腕から脱がせ、右腕から着せる。

- (20) 個人防護具の脱衣手順で最初に外すのはどれか。
1. 手袋
 2. ガウン
 3. サージカルマスク
 4. フェイスシールド
- (21) 災害対策基本法に定められている内容で正しいのはどれか。
1. 物資の備蓄
 2. 避難所の設置
 3. 災害障害見舞金の支給
 4. 救護班による医療の提供
- (22) 養育医療が定められている法律はどれか。
1. 児童福祉法
 2. 母子保健法
 3. 発達障害者支援法
 4. 児童虐待の防止等に関する法律
- (23) 母体保護法で規定されているのはどれか。
1. 産後の休業
 2. 妊娠中の女性の危険有害業務の就業制限
 3. 妊娠したことを理由とした不利益な取扱いの禁止
 4. 経済的理由により母体の健康を著しく害するおそれのある場合の人工妊娠中絶
- (24) 市町村保健センターの業務はどれか。
1. 廃棄物の処理
 2. 人口動態統計調査
 3. 看護師免許申請の受理
 4. 地域住民の健康づくり
- (25) 介護保険法で地域包括支援センターに配置が義務付けられているのはどれか。**2つ選べ。**
1. 介護福祉士
 2. 社会福祉士
 3. 介護支援専門員
 4. 精神保健福祉士
 5. 主任介護支援専門員

- (26) 健康増進法に基づき実施されるのはどれか。
1. 受療行動調査
 2. 特定保健指導
 3. アレルギー疾患対策
 4. 受動喫煙の防止対策
- (27) Aさん(57歳、女性)は1人暮らし。統合失調症で精神科病院への入退院を繰り返しており、今回の入院は1年が経過している。日常生活動作〈ADL〉はほぼ自立し、服薬の自己管理ができるようになってきた。
- Aさんが退院に向けて利用するサービスとして適切なのはどれか。
1. 療養介護
 2. 施設入所支援
 3. 地域移行支援
 4. 自立訓練としての機能訓練
- (28) 精神障害者保健福祉手帳の交付によって精神障害者に適用されるのはどれか。
1. 行動援護の介護給付
 2. 所得税の障害者控除
 3. 自立支援医療(精神通院医療)
 4. グループホームで必要な日常生活上の援助
- (29) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律〈精神保健福祉法〉に基づく入院形態で正しいのはどれか。**2つ選べ。**
1. 応急入院は72時間以内に限られている。
 2. 緊急措置入院中の患者は本人と家族が希望すれば退院できる。
 3. 措置入院中の患者は精神医療審査会へ退院請求を申し出ることができる。
 4. 精神保健指定医は任意入院中の患者について入院継続を必要と判断しても、退院を制限できない。
 5. 医療保護入院のためには入院の必要性に関する2名の精神保健指定医の一致した判断が必要である。
- (30) 災害医療について正しいのはどれか。
1. 災害拠点病院は市町村が指定する。
 2. 医療計画の中に災害医療が含まれる。
 3. 防災訓練は災害救助法に規定されている。
 4. 災害派遣医療チーム〈DMAT〉は災害に関連した長期的な医療支援活動を担う。

- (31) 児童相談所について正しいのはどれか。2つ選べ。
1. 国が設置する。
 2. 児童福祉司が配置されている。
 3. 母親を一時保護する機能を持つ。
 4. 知的障害に関する相談を受ける。
 5. 児童の保健について正しい衛生知識の普及を図る。
- (32) 児童虐待の防止等に関する法律〈児童虐待防止法〉に基づいて行う通告で正しいのはどれか。
1. 警察に通告する。
 2. 守秘義務の遵守が優先される。
 3. 通告にあたっては児童自身の意思を尊重することが規定されている。
 4. 児童が同居している家庭における配偶者に対する暴力は通告の対象となる
- (33) Aさん(28歳、女性)は、2歳の子どもの養育しながら働いている。Aさんが所定労働時間の短縮を希望した場合、事業主にその措置を義務付けているのはどれか。
1. 児童福祉法
 2. 労働基準法
 3. 男女共同参画社会基本法
 4. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律〈男女雇用機会均等法〉
 5. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律〈育児・介護休業法〉

2. 身長 170 cm、体重 70kg の成人の体格指数〈BMI〉を求め、判定基準を答えよ。

- (1) BMI (小数点以下第 1 位を四捨五入し整数で答えよ。)
- (2) 判定基準
1. 低体重
 2. 標準
 3. 肥満
 4. 高度肥満

3. 次の文を読み、下記の問いに答えよ。

在胎 39 週 4 日で、正常分娩で出生した児。出生体重 3,000g、身長 48.0 cm。出生直後、児に付着していた羊水をふき取り、インフアントラジアントウォーマーの下で観察を行った。体温 37.5°C、呼吸数 56/分、心拍数 150/分、呼吸音は異常なし。

看護師は観察を終え、温めておいたベビー服を着衣させ、同様に温めておいた寝具を用いて準備をしたコットに児を寝かせた。コットは壁際や窓辺を避け、空調の排気口からの風が当たらない場所に配置した。

(1) 看護師が児の体温保持のために行ったことと、それにより予防される熱の喪失経路との組み合わせで正しいのはどれか。

- | | | |
|--------------------------------|-------|----|
| 1. 羊水をふき取ったこと | ————— | 蒸散 |
| 2. 観察をインフアントラジアントウォーマーの下で行ったこと | ———— | 対流 |
| 3. 温めたベビー服と寝具を用いたこと | ————— | 輻射 |
| 4. 風が当たらない場所にコットを配置したこと | ————— | 伝導 |

(2) 生後 1 日。児の状態は、体温 37.0°C、呼吸数 48/分、心拍数 120/分、呼吸音は異常なし。体重 2,850g。出生後から現在までの状態は安定していた。母親も分娩時の疲労から回復し、産後の状態も安定しているため、母児同室を開始することとなった。この施設では、自律授乳を行っている。

母親へのオリエンテーションの内容で適切なのはどれか。

1. 「新生児室へ行く時は、赤ちゃんをコットに寝かせて移動してください」
2. 「沐浴の時は、赤ちゃんのネームバンドを外しましょう」
3. 「赤ちゃんの体温は 1 時間おきに測ってください」
4. 「授乳は 3 時間ごとに行ってください」

(3) 生後 3 日。看護師が朝の観察を行ったときの児の状態は、体温 37.0°C、呼吸数 40/分、心拍数 130/分。体重 2,680g。顔面と胸部の皮膚に黄染が認められる。その他の部位は淡紅色である。手関節と足関節の皮膚に落屑がある。尿は 6 回/日、便は 2 回/日で移行便である。

児の状態で生理的特徴から逸脱しているのはどれか。

1. 体温
2. 呼吸数
3. 皮膚色
4. 体重減少率
5. 皮膚の落屑

4. 次の文を読み、下記の問いに答えよ。

Aさん(43歳、男性、会社員)は、妻(38歳)と2人暮らし。1年前から、仕事上の失敗を上司から叱責されることが続いていた。半年前からAさんの飲酒量は次第に増えていき、最近では酒気を帯びたままの出勤や、飲酒を原因とした遅刻や欠勤をすることが増えていた。ある夜、Aさんは居酒屋で多量に飲酒し、その場で意識が消失したため、救急車で救命救急センターへ搬送され、入院となった。器質的検査及び生理的検査では異常が認められなかったが、入院翌日に飲酒の問題について同じ病院内の精神科を受診した結果、Aさんはアルコール依存症と診断された。

(1) 入院後3日までにAさんに出現する可能性が高い症状はどれか。2つ選べ。

1. 観念奔逸
2. 緘黙
3. 強迫症状
4. 幻覚
5. 振戦

(2) 入院後3日。面会に来た妻は、飲酒によって多くのトラブルを抱えているAさんへの対応に困っており、Aさんの飲酒行動に対する関わり方について、今後どのようにすればよいか看護師に相談した。

Aさんの妻に対する助言で適切なのはどれか。

1. 「飲酒による仕事上の失敗についてAさんと議論しましょう」
2. 「飲酒したいというAさんの気持ちは聞かないようにしましょう」
3. 「Aさんが飲酒したことがわかっても注意はしないようにしましょう」
4. 「Aさんの飲酒によるトラブルを代わりに解決しないようにしましょう」

(3) 入院中にAさんは、退院後に再び飲酒してしまうのではないかという不安を看護師に訴えた。

Aさんに断酒を支援するための看護師の提案で適切なのはどれか。

1. 共同生活援助〈グループホーム〉への入居
2. セルフヘルプグループへの参加
3. 行動援護の利用
4. 生活訓練の利用

5. 次の文を読み、下記の問いに答えよ。

Aさん(55歳、男性、会社員)。激しい胸痛で救急搬送され、心筋梗塞と診断された。冠動脈バイパス〈CABG〉を受け、ICUに入室した。

手術中の輸液量 2,700 ml、輸血量 400 ml、出血量 280 ml、尿量 200 mlであった。手術から6時間が経過し、人工呼吸器が装着され、心嚢ドレーンと、胸腔ドレーンが留置中である。

身体所見：体温 37.1°C、脈拍 63/分、血圧 126/62mmHg、末梢冷感はなし。肺野全体に湿性ラ音を聴取、漿液性の気道分泌物を認める。

検査所見：吸入酸素濃度 40%、動脈血酸素分圧〈PaO₂〉95Torr、動脈血炭酸ガス分圧〈PaCO₂〉36Torr、中心静脈圧 12cmH₂O、心エコー検査では心室駆出率〈LVEF〉45%、心嚢液の貯留なし。胸部エックス線写真では両肺野の後半に透過性の低下を認める。

- (1) Aさんに起こっている可能性が高い合併症はどれか。
 1. 低心拍出量症候群〈LOS〉
 2. 心タンポナーゼ
 3. 肺水腫
 4. 無気肺

- (2) 術後2日、Aさんは人工呼吸管理を離脱し、離床が検討されたが中止となった。看護師がAさんの離床中止を判断した指標はどれか。2つ選べ。
 1. ドレーンが留置中である。
 2. 安静時の呼吸数が20/分である。
 3. 安静時の心拍数が100/分である。
 4. 新たな不整脈(心房細動)が発生している。
 5. 時間尿量 0.5 ml/kg/時が3時間持続している。

- (3) 術後3日、心臓リハビリテーションが開始された。Aさんは「傷の痛みはありますが、血管をつないだから安心ですね。落ち着いたら、家族と温泉に行きたいです」と看護師に話した。

Aさんの生活指導で適切なのはどれか。

 1. 「肩までお湯に入りましょう」
 2. 「お湯の温度は43°C以上にしましょう」
 3. 「食後1時間以上経過してから入浴しましょう」
 4. 「心筋梗塞による心不全があるので入浴は控えましょう」

6. 次の文を読み、下記の問いに答えよ。

Aさん(56歳、男性、会社員)は、デスクワークが多い仕事をしている。40歳時の会社の健康診断で2型糖尿病と診断され、紹介されたクリニックで血糖降下剤を処方されて内服を継続していた。50歳ころから視力の低下と持続性蛋白尿を指摘され、腎臓内科を受診し食事指導を受けた。しかし、仕事が忙しく食事指導の内容を守れていなかった。1年前から、足のしびれが出現するようになった。

(1) Aさんの現在の状況のアセスメントで適切なのはどれか。

1. 緑内障が疑われる。
2. 運動療法が必要である。
3. 糖尿病性神経障害が疑われる。
4. 高蛋白質の食事摂取が必要である。

(2) Aさんは、3か月前に末期腎不全の状態ですべての腎代替療法(血液透析)が必要であると腎臓内科の医師から説明された。シャント造設のための入院を予定していたが、仕事が忙しく延期となっていた。1週間前から感冒症状があり、体重増加、全身浮腫、全身倦怠感、呼吸苦が出現したため、緊急入院となった。透析用のカテーテルを挿入し、緊急血液透析となった。

入院時の身体所見：体重73kg(1週間で4kg増加)、血圧178/105mmHg。

入院時の検査所見：Hb9.5g/dl、血清尿素窒素72mg/dl、血清クレアチニン9.0mg/dl、血清カリウム6.8mEq/l、血清ナトリウム138.5mEq/l。

緊急入院のAさんの胸部エックス線写真を次に示す。

Aさんが緊急血液透析となった病態で正しいのはどれか。



1. 貧血
2. 心不全
3. 低カリウム血症
4. 低ナトリウム血症

- (3) Aさんは、緊急血液透析によって全身状態が改善した。その後、シャント造設術を受け、週3回の血液透析となり、退院後は職場に近いクリニックで維持血液透析を受けることが決定した。Aさんから、退院後の生活について「仕事に復帰予定ですが、医療費の支払いが心配です」と発言があった。

維持血液透析により身体障害者手帳を取得したAさんが利用できる医療費助成制度はどれか。

1. 医療扶助
2. 自立支援医療
3. 訪問看護療養費
4. 認定疾病に対する医療の給付

7. 次の文を読み、下記の問いに答えよ。

Aさん(76歳、男性)は妻(72歳)と2人で暮らしている。ベッドからトイレに起きようとしたところ右上下肢にしびれと脱力感があり、動けなくなったため救急車で来院した。頭部CTで左中大脳動脈領域のラクナ梗塞と診断され、緊急入院し血栓溶解療法が施行された。

既往歴：53歳で高血圧症と診断され内服治療を継続している。

生活歴：60歳まで食品会社に勤務していた。

入院時の身体所見：身長168cm、体重65kg、体温37.2℃、呼吸数20/分、脈拍78/分、整、
血圧210/88mmHg、経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉97%(room air)、右上下肢麻痺を認めた。

入院時の検査所見：白血球3,600/ μ l、赤血球420万/ μ l、Hb11.2g/dl、総蛋白6.2g/dl、
アルブミン3.6g/dl、空腹時血糖108mg/dl、CRP0.1mg/dl。

(1) 入院2日、Aさんは全身状態が落ち着いてきたため、主治医から離床開始の指示があった。Aさんの離床開始時の観察項目で優先度が高いのはどれか。

1. 血圧
2. 見当識障害
3. 下肢の知覚障害
4. 夜間の睡眠状況

(2) 入院5日。Aさんは座位訓練の後、車椅子に座って食事を摂取することになった。食事動作は自助具を使用すれば少しずつ自分で摂取できるようになったが、時間が経過すると上体が右側に傾くため、体幹の右側にクッションを入れて食事をしている。

Aさんが安定して食事ができるための援助で適切なのはどれか。

1. 座位時間を徐々に短縮する。
2. テーブルの高さを高くする。
3. 背部にタオルを入れ軽く前傾姿勢にする。
4. Aさん自身で左側に重心を傾けるよう指導する。

(3) 入院2週、Aさんは自宅への退院を目指し、回復期リハビリテーション病棟へ転棟することになった。Aさんは、座位姿勢での右側への傾きが徐々に改善され、食事や作業療法の時間は車椅子での座位保持が可能になってきた。Aさんは看護師の介助で車椅子に移乗が可能となり、車椅子でトイレに移動できるようになった。看護師はAさんのADLの拡大を目標に、看護計画を修正することにした。

障害高齢者の日常生活自立度(寝たきり度)判定基準における評価で、Aさんの生活状況はどれか。

1. ランクJ
2. ランクA
3. ランクB
4. ランクC